

press release



船田玉樹《紅梅(利休像)》(部分) 昭和17(1942)年

異端にして正統、
孤高の画人生

生誕100年 船田玉樹展

—異端にして正統、孤高の画人生—

新着情報(1月11日更新)

開会式情報、主要作品解説、イベント詳細情報

会 期:平成25(2013)年1月21日(月)~平成25(2013)年2月20日(水)

※会期中無休

開館時間:9:00~17:00(金曜日は19:00まで)

※1月21日(月)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

料 金:一般 1,000円(800円)

高・大学生 600円(400円)

小・中学生 400円(200円)

※()内は前売・20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246
<http://www1.hpam-UNET.ocn.ne.jp/> FAX(082)223-1444

【「生誕100年船田玉樹展」開会式】

下記のとおり、開会式を行います。報道関係者の皆様におかれましては、当日のご出席ならびに取材・広報にご協力いただきますよう、お願い致します。当日、取材される場合には事前にご連絡いただくと幸いです。

日時／平成25年1月21日(月)午前9時30分～

場所／広島県立美術館3階ロビー

※ 船田玉樹の御子息船田奇岑様も参加されます。

【式次第】

- 1 開会の辞
- 2 主催者紹介・挨拶
広島県立美術館長 越智裕二郎
中国新聞社 代表取締役社長 岡谷義則 ほか
- 3 来賓紹介・祝辞
船田玉樹ご子息 船田奇岑 様
- 4 特別協賛者・協賛者紹介
医療法人あかね会 土谷総合病院 様
三島食品 様
大山皮ふ科クリニック 様
広島県信用組合 様
- 5 テープカット
- 6 閉会の辞
- 7 内 覧

【開催概要】

展覧会名称

生誕100年 船田玉樹展

開催クレジット

主催 船田玉樹展実行委員会(広島県立美術館、乃村工藝社・イズミテクノ美術館活性化共同事業体)
中国新聞社

後援 中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FMハムスター79.0MHz

協賛 医療法人あかね会 土谷総合病院、三島食品、広島県信用組合、大山皮ふ科クリニック

助成 芸術文化振興基金

会期

平成25(2013)年1月21日(月)～平成25(2013)年2月20日(水) ※会期中無休

入館料

一般:1,000円(800円) 高・大学生:600円(400円) 小・中学生 400円(200円)

※ ()内は前売り・団体20名以上

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名までの)
当日料金は半額

※東日本大震災で避難者してこられた方は無料

※特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

※学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 永井明生 事業推進課 山本恵子

【展覧会概要】

異端にして正統、孤高の画人生。故郷・広島にて、その全貌に迫る。

船田玉樹(1912-1991)は、広島県賀茂郡広村(現在の呉市広)に生まれ、近年では日本画のアヴァンギャルドとして大変注目されている画家です。

最初の師は、かの天才日本画家・速水御舟(1894-1935)でした。しかし、まもなく御舟が没したため小林古径(1883-1957)に師事。そこで、まず謹厳な線描と端麗な色彩を駆使した日本画表現を学びました。1938年には丸木位里らとシュルレアリスムや抽象主義などを積極的に取り入れ、日本画を基礎とした前衛表現を戦中まで追究しました。

戦後は郷里の広島に根をおろして創作を続け、岩絵具や墨のみならず油彩やガラス絵など日本画では通常、用いることのない様々な画材とひたすら向き合った作品も残しました。

本展覧会では、シュルレアリスムや抽象表現に挑戦していた時代の作品をはじめ、琳派的な豊かな装飾性を示す屏風作品、水墨表現の可能性を追い求めた山水画、扇面図、これまでほとんど知られていなかった河童の連作など、多彩な作品約230点(師や交友の画家たちの作品を含む)を一挙公開し、絵を描くことが人生そのものだったこの特異な画家の全容にせまります。

(広島県立美術館主任学芸員 永井明生)

【船田玉樹について】

※「生誕100年 船田玉樹展」公式図録兼書籍
『船田玉樹画文集 独座の宴』(求龍堂)より抜粋

氏は最後までその作品に向かい続けるのだ。画面いっぱい松と梅をとにかく描き続けること、その上に金箔を貼り、また描く。その描線の奥にあって消されたものもまた生命(いのち)。ここで私はミケランジェロのピエタやガウディの未完のサグラダファミリアを想うかべるべきかも知れない。この未完成なものへの執着は、宮沢賢治の異稿の多さと較べるべき長い道程(みちのり)だ。

—北川フラム(アートディレクター)

春のレンゲ、サクラ。夏のカラスアゲハ(たまにミヤマカラスアゲハ)、イトトンボ。秋のアケビ、シイの実。そして冬の足指の霜焼け・・・そんな自然に対する、四季に対する実感は、私の日本美術に対するアニミズム的理解の根幹を形成している。(中略)玉樹と私は、まさに同じ空気を吸っていた。

—山下裕二(明治学院大学教授)

船田は風景を得意とした。だがその本領は、一本の大樹を描くことにある。(中略)闇の中から木が、家が幻のように浮かび出てくる、そのような世界を船田は描こうとした。重ねた色の底から、年を経て、下地の色が洩れ出てくる色香を愛した。私はそれを、制作のはじめから手が離れるまで、二年間ほどそばで見ている『枝折桜』において体験した。私にとっても美学の道場であった。

—金田晋(美学、東亜大学特任教授、広島大学名誉教授)

モノクロームの画面から伝わる韻律は、時として無窮へのたじろぎを覚えさせながら、ゆるやかで甘美な抱擁感にみちびくような尊い何ものかをも感じさせる。あるいはまた、大気の幾重にも重なるうそぶきが、やがて壮大な交響楽に変わってゆくようなスケールをもっているのだ。(中略)

それらの作品の前では、言語も、観ることさえも歯がたたないかもしれない。

我々は、ただその前でたたくむしかない。

—野地耕一郎(練馬区立美術館主任学芸員)

御舟や古径、靱彦を慕い、作画姿勢に対する高い意識を保ち続けた玉樹は、群れることを避けてあえて孤独を選び取り、自らの絵画世界を求めてひたすら内側へと沈潜する傾向を強めていく。(中略)船田玉樹の到達した芸術の高みが未来へと継承され、その作品の魅力が多くの方々へ届いてほしい。

—永井明生(当館主任学芸員)



『船田玉樹画文集 独座の宴』(求龍堂)
3150円(税抜き)

press release

【主要作品解説】

生誕100年

船田玉樹展

A Centenary Retrospective
Gyokuju Funada



《花の夕》1938年 180.0×359.3cm 紙本彩色・四曲一隻屏風

四曲一隻の画面中央に大樹を据え、その上から絵具を画面に直接滴らせたかのように、大胆に赤・ピンク・白の花弁を散らしている。花の部分にはドイツ製のコチニールという染料を用いたとのこと。記念すべき第1回歷程美術協会展出品作。



《紅梅(利休像)》1942年 182.5×204.2cm 紙本彩色・額

歴史画を研究していたころの代表作。利休と秀吉の逸話の中で、朝顔の茶会に続くもの。秀吉の難題に応えた利休の美への信念が顔に表れる。利休のモデルは、玉樹の父小四郎ともいわれるが、玉樹の晩年の顔とも重なって見える。



《残照》1956年 236.0×206.0cm 紙本彩色・額

昭和31(1956)年の第41回院展で奨励賞を受賞した大作。樹木の林立のようにも抽象形態のようにも見えるその幻想的な画面は、マックス・エルンストのシュルレアリスム作品を連想させる。



船田玉樹《大王松》1947年 181.5×364.0cm 紙本彩色・四曲一隻屏風

松の中でも、葉の長い大王松を画面いっぱい展開する。実際の大きさよりかなり大きく、畏敬をもって描かれている。人の視覚とは違う様相を見せる植物にはアニミズム的な神が宿っているようでもある。

press release

【出品作品図版】

生誕100年 船田玉樹展

A Centenary Retrospective
Gyokuju Funada



《暁のレモン園》1949年 181.2×362.0cm 紙本彩色・四曲一隻屏風 京都国立近代美術館蔵



《すすきの原の秋》1950年
180.0×68.0cm
絹本彩色・額 広島県立美術館蔵



《枝垂れ桜》1986年 169.7×185.0cm 紙本彩色・二曲一双屏風



《海辺老松》1973年
146.2×55.6cm
絹本墨画彩色・軸

【展覧会構成と内容】

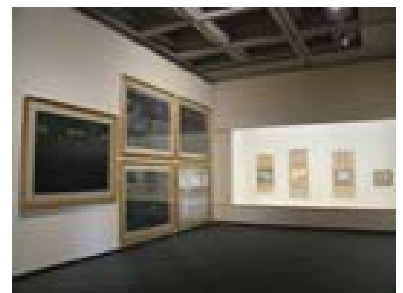
I：画業のはじまり一師・速水御舟、小林古径と共に

中学時代から油彩を始めた玉樹は、はじめ洋画家の山路商に学び、鬘光らとも交流。しかし、上京後、琳派絵画に感銘し日本画に転向。1934年より速水御舟、その後は小林古径に師事した。1938年からは歷程美術協会で丸木位里や岩橋英遠らと研鑽。シュルレアリスムなどを果敢に取り込んだが、1944年に応召、病を得て広島に帰り、以後故郷を離れることはなかった。第一章では、師友の作品も併せ、自らの絵画世界を探究しはじめた玉樹を紹介する。



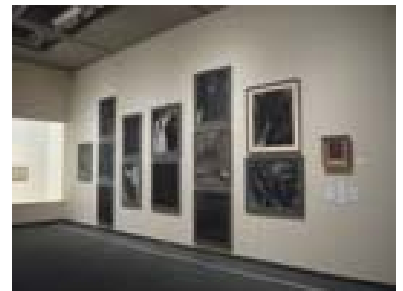
II：新たな出発—生涯のテーマ、花そして風景

終戦後、徐々に大作を描き始めた玉樹は、1948年からは院展に再び出品、幻想を帯びた風景画は安田靉彦から激賞された。だが、出品サイズをめぐる齟齬から1963年に院展を脱退、新興美術院に理事として参加した。そこに発表した《九品仏》や《滝》連作は、積藁や睡蓮を執拗に描き続けたモネを連想させる。一方、個展でも同じテーマが追究され、折々の花や風景等いずれも密度のある珠玉の小品群となっている。



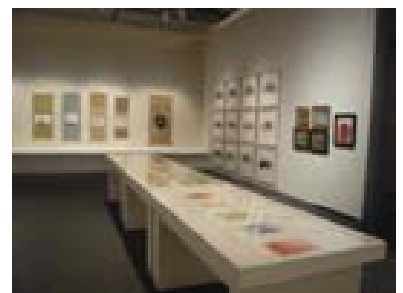
III：水墨の探究—異端にして正統、抽象への挑戦

1960年代半ばから、玉樹は再び水墨表現にも冴えを見せはじめる。1930年代半ばから培った様々な技法を駆使して、山水表現を展開。1974年にクモ膜下出血で倒れた後も、不自由ながら指先を何とか制御し、玉樹は憑かれたように水墨で抽象的な形象に挑み続けた。数千枚に及ぶ水墨実験の末、さらに気韻の生動する山水表現へとそれは展開を果たすことになった。



IV：孤高の画境へ—華やかな大作、屏風の競演

大病を機に、玉樹は新興美術院を脱退。以後無所属となって制作三昧の日々を過ごす。水墨にガラス絵のコラージュ、水墨河童を一気に制作し、また河童の詩を何篇も詠んだ。また、扇面《山の家》連作は墨の濃淡やぼかして気宇壮大な世界の広がりを表現。最晩年には、驚くことに一層華やかな梅や桜、松の大作屏風を積極的に制作している。そして、1991年、「画神」に取り憑かれた画家は世を去った。



【作家略歴】

船田玉樹(ふなだ・ぎょくじゅ) 1912年、広島県賀茂郡広村(現・呉市広)生まれ。1936年、院展に初入選。以後、新日本画研究会展や歷程美術協会展などで前衛的な作品を発表し続けた。1944年から広島に拠点を移し、多彩な作品を発表。1991年、急性心不全で死去、78歳だった。



画室での制作風景

上記はいずれも、練馬区立美術館にて開催した「生誕100年 船田玉樹展」(平成25(2012)年7月15日～平成25(2012)年9月9日)の様子。

【関連イベント】

特別対談

「船田玉樹について語る」(広島県立美術館友の会共催)

講師: 山下裕二(明治学院大学教授)、船田奇岑(絵師・テルミニスト 船田玉樹子息)

日時: 1月27日(日) 13:30～ (開場30分前)

場所: 地階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

美術講座

「孤高の画人生—船田玉樹」

講師: 永井明生(広島県立美術館主任学芸員)

日時: 2月3日(日) 13:30～ (開場30分前)

場所: 地階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

記念コンサート

1) 「仏教讃歌のタベ」

出演: 仏教讃歌混声合唱団コール・スガンディ

日時: 2月8日(金) 17:00～

場所: 1階ロビー

※聴講無料。申込不要

【コール・スガンディとは】

コール・スガンディは平成9年に発足しました。龍谷大学、京都女子大学、広島音楽高校、崇徳高校グリークラブなど、学生時代に仏教讃歌を歌っていたメンバーが中心です。「スガンディ」とは、古代インドの言葉で、「よい香りの」、という意味の言葉。多くの作曲者の思いの込められた仏教讃歌を、よい香りが心地よく広がっていくように、多くの方に聞いていただき、親しんでいただきたいとの思いで、活動を続けられています。



2) 「船田玉樹にささぐ 実験を楽しむ心—第1回広島電子音楽研究会」

出演: 船田奇岑(絵師・テルミニスト 船田玉樹子息)ほか

日時: 2月9日(土)・10日(日) 各10:00—16:30

場所: 地階講堂

※船田玉樹展入館券が必要です(定員200名)

【内容について】

「生誕100年 船田玉樹展」の関連イベントである第1回電子音楽研究会は、「アバンギャルド、前衛、実験的」をキーワードに、「発信、交流、研究」を目的として開催されます。9日(土)は、公開セッティング、公開リハーサル、ワークショップにあて、10日(日)は終日ライブイベントという予定です。両日も、船田玉樹展のチケット半券で何度でも出入り自由とします。

現在制作を進めている本イベントチラシのメインビジュアルは、船田玉樹の作品をもとにイラストレーター・画家の田中修一郎氏がデザイン。この「電腦利休像」はグッズ展開も検討中。斬新な音楽を、船田玉樹の作品とともに味わってみてはいかが？



press release

生誕100年 船田玉樹展

A Centenary Retrospective
Gyokuju Funada

ワークショップ

※ワークショップは事前予約制 各回とも定員15名

※詳細は当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

1)「玉樹に倣う 扇面に描こう！水墨編」

講師：森山知己(日本画家)

日時：2月2日(土)13:30～

場所：3階ロビー

2)「玉樹を模写 扇面に描こう！色彩編」

講師：王培(広島市立大学助教)ほか

日時：2月17日(日)13:30～

場所：3階ロビー

ワークショップ申込先：

RCC文化センター「美術館ワークショップ係」

FAX: 082-222-2270 電子メール: sankan_ws@rccbc.co.jp

往復はがき: 〒730-0015 広島市中区橋本町5-11

ワークショップ問い合わせ先：

TEL 082-222-2276 (RCC文化センター広告・イベント事業部)

受付時間/平日10:00～17:00

ギャラリートーク

講師：永井明生(広島県立美術館主任学芸員)

日時：毎週金曜日11:00～、2月1日(金)・2月15日(金)18:00～

場所：3階企画展示室 ※船田玉樹展入館券が必要。

ウェブ・レポーター大募集！！

日時：1月25日(金)17:00～18:30

受付場所：3階展示室入口 実施場所：3階展示室内

対象：インターネットで情報発信をされている一般の方

特典：実施当日限り、船田玉樹展にご招待

関連企画「ウェブ・レポーター大募集」では日頃、ホームページやブログ、Twitter、Facebook等で情報発信をされている方に、鑑賞いただき、その素敵な感想をインターネットを通じて、情報発信していただきます。なお、ウェブ・レポーターとして当日ご参加いただく方は、無料で鑑賞会をご鑑賞いただけます。

あなただけが知っている鑑賞会の面白さ、鑑賞会を鑑賞して発見した見どころなど、自由に発信してください。皆様のご参加をお待ちしております。

船
田
玉
樹

A Centenary Retrospective
Gyokuju Funada

生誕100年
船田玉樹展
ウェブ・レポーター大募集
関連企画「ウェブ・レポーター大募集」では日頃、ホームページやブログ、Twitter、Facebook等で情報発信をされている方に、鑑賞いただき、その素敵な感想をインターネットを通じて、情報発信していただきます。なお、ウェブ・レポーターとして当日ご参加いただく方は、無料で鑑賞会をご鑑賞いただけます。あなただけが知っている鑑賞会の面白さ、鑑賞会を鑑賞して発見した見どころなど、自由に発信してください。皆様のご参加をお待ちしております。

1月25日(金)開催！

きもの De 美術館

会期中、着物を着て本展をご鑑賞の方にもれなく、オリジナルクリアファイルをプレゼント！さらに素敵なプレゼントのチャンスも。

広島県立美術館パートナーズクラブ・プレゼンツ

「アートと私の美味しい時間」

日時：2月15日(金) 受付16:30/レストラン開場18:00

出演者：武田正和(三宅本店「千の福めぐり」商品開発担当者)

越智裕二郎(当館館長)

会場：特別展会場及び館内レストラン「ラ・シガール」

定員：各回50名(先着順)

料金：1人3,000円(税込) ※要事前申し込み。詳しくはHPまで。

美術館といえば、アート。そのアートをもっと楽しむことができれば—「アートと私の美味しい時間」では、視覚だけにとらわれず味覚などの五感でさらにアートを愉しむ、そんな時間を提供します。第1回目は、「世界遺産ヴェネツィア展」とワインを楽しみ、大好評のうちに終了いたしました。

そして、待望の第2回目は、「Part 2; The days of sake and arts.」と題して、「生誕100年 船田玉樹展」とのコラボレーション企画を開催します。当館で開催中の鑑賞会を鑑賞し、画家の故郷である呉の蔵元「三宅本店(千福)」の日本酒とともに特別ゲストをお招きして、船田玉樹そして日本酒とアートについて語り合います。アートとお酒の豊かな時間へようこそ。



「生誕100年 船田玉樹展」と
船田玉樹の出身地・呉の日本酒、そして美味しい話。